

基本情報						
教科・科目		数学2	・授業で使用するもの テキスト「これからの数学1」「体系数学1 幾何編」「体系数学2 代数編」 問題集「体系問題集1 幾何編」「体系問題集2 代数編」 ノート、直線定規、コンパス			
担当者		時國雅史				
評価割合(試験:試験外)		試験:6 試験外:4	試験は、単元目標および<知技、思判表、主体>の3観点に沿って出題する。			
年間を通じて教科で培う力		鍛錬(知識及び技能)	基本的な用語や記号の意味を理解できる。計算方法を理解し、正しく使える。 定規やコンパスを使って正しい作図ができる。			
		理知(思考力・判断力・表現力等)	自分が考えたことを数学的に表現できる。証明の型を作ることができる。 なぜこの手法で作図ができるかを考えることができる。			
		探求・叡智(主体的に学習に取り組む態度)	個々の感じている課題に対して粘り強く最後まで取り組む姿勢がある。 学んだことを他の事象に転用できる。			
学習情報						
月	回	単元(学習)目標	単元目的(到達状態)	学習内容	活動内容	評価方法・ポイント
4	3	図形を適切に言葉で表現することができる。	・図形を言葉で表現するには共通認識の用語が必要であることを理解している。 ・小学校までで学習した図形を表す用語を定義し直し、それぞれの意味を理解している。 ・図形を表現する言葉の意味を拡張することで現実事象につながることを実感している。	・図形を表す用語の定義 ・図形の操作(描画)と言葉の対応 ・図形の操作を表す用語の拡張	・講義 ・言葉による表現 ・グループワーク	・授業開始時の復習プリント ・小テスト ・講義への応答
5	6	図形の定義と作図に対応させることができる。 図形と図形の対応を理解することができる。	・図形を表す用語と作図の1対1の対応が正確である。 ・図形と図形の対応を表す表現を理解している。 ・図形と図形の対応を言葉からイメージすることができる。	・図形用語の定義と作図との対応 ・図形と図形の関係 ・図形と図形の関係を表す表現	・講義 ・言葉による表現 ・グループワーク	・授業開始時の復習プリント ・小テスト ・演習プリント ・講義への応答
6	定期試験① 令和8年 6月3日―6月5日)					
6	8	特定の図形を作図することができる。 小学校で学習した図形に関する量を求めることができる。	・小学校で学んだ垂直二等分線、角の二等分線などを正確に作図することができる。 ・三角形や四角形、円などが混在した図形の面積を求めることができる。 ・図形が移動した際の軌跡の面積を求めることができる。	・コンパスと定規の適切な利用 ・既知の求積方法を用いて問題の面積を求める ・実際に図形を動かすことで軌跡をイメージする	・講義 ・言葉による表現 ・グループワーク	・授業開始時の復習プリント ・小テスト ・演習プリント ・講義への応答
7	4	空間図形を適切に言葉で表現することができる。 空間図形と空間図形の関係を言葉で表現することができる。 空間図形に関する量を求めることができる。	・空間図形を表す言葉を正確に理解している。 ・空間図形と空間図形を表す関係を図示することができる。 ・体積や側面積といった空間図形の基本的な量を求めることができる。またなぜそのように求めることができるかをイメージとして理解できている。	・空間図形に関する適切な言葉遣い ・空間図形と空間図形の関係の正確な理解 ・図形ソフトを用いた空間図形と空間図形の関係の表現 ・空間図形に関する求値	・講義 ・言葉による表現 ・グループワーク	・授業開始時の復習プリント ・小テスト ・演習プリント ・講義への応答
7	定期試験② 令和8年 7月15日―7月17日 範囲)					
8	-					
9	6	空間図形の切断や対象移動を、立面図等を用いて把握することができる。 空間図形に関する量を求めることができる。	・空間図形の切断面を作図することができる。 ・立面図等を用いて、本来ベクトルを用いて求めるような線分の長さを求めることができる。	・空間図形の切断のイメージ ・空間図形の切断と平面の関係 ・空間図形の切断の作図方法 ・求値問題と立面図等の関係	・講義 ・言葉による表現 ・グループワーク	・授業開始時の復習プリント ・小テスト ・演習プリント ・講義への応答
10	5	データに関する様々な値や表し方を用いて多角的な視点でデータを参照することができる。	・データを数え上げ各種グラフを用いて表すことができる。 ・各種代表値の定義を理解している。 ・各種代表値からデータの概観を把握することができる。	・データを表す各種用語 ・データを表すための各種グラフ ・各種平均とその使い方	・講義 ・言葉による表現 ・グループワーク	・授業開始時の復習プリント ・小テスト ・演習プリント ・講義への応答
10	定期試験③ 令和8年 10月21日―10月23日 範囲)					
11	6	確率の概念を形成するとともに、データを整理することで起こりやすさの確率を理解できている。 平面における直線の性質を理解し、平行について定義することができる。	・累積度数等を用いてその事象の起こりやすさを判断することができる。 ・確率が割合であることを理解し、確率の概念を習得できている。 ・身近な事柄を確率を用いて判断しようとしてすることができる。 ・2直線が平行であること、同位角が等しいこと、あるいは錯角が等しいことは同値であることを理解できている。 ・平行線を利用した種々の角度を求めることができる。	・日常に存在する確率と累積度数の関係 ・割合としての累積度数 ・確率を通して現実事象を眺める ・平行の定義と同位角、錯角との関係 ・角度の求値問題における同位角、錯角の利用	・講義 ・言葉による表現 ・グループワーク	・授業開始時の復習プリント ・小テスト ・演習プリント ・講義への応答
12	3	小学校で学んだ図形に関する帰納的な知識を論理を用いて説明することができる。	・三角形の内角の和が180度であることを平行線を用いて説明することができる。 ・三角形の外角の定理を平行線を用いて説明することができる。	・三角形の内角の和が180度であることの論理的な説明 ・既習の事項と平行線の関係	・講義 ・言葉による表現 ・グループワーク	・授業開始時の復習プリント ・小テスト ・演習プリント ・講義への応答
12	定期試験④ 令和8年 12月9日―12月11日 範囲)					
1	5	図形の論理的な説明を作図と対応させることができる。	・三角形を正確に作図する作業を言語化する適切な言葉を用いて説明することができる。 ・作図する際の条件の変化と図形の変換可能性について考えることができる。	・与えられた三角形を正確に作図する ・作図の過程を言葉で説明する	・講義 ・言葉による表現 ・グループワーク	・授業開始時の復習プリント ・小テスト ・演習プリント ・講義への応答
2	6	三角形の合同条件を作図と対応させて理解することができる。	・三角形の作図と合同条件を比較しながら考えることができる。 ・三角形の作図を言語化することで合同条件を導くことができる。 ・合同を証明する際の言葉遣いに注意を向けることができる。	・三角形の作図を元に、その合同条件を言葉で説明する ・合同条件から作図する ・着目した図形の合同を言葉で説明する	・講義 ・言葉による表現 ・グループワーク	・授業開始時の復習プリント ・小テスト ・演習プリント ・講義への応答
3	定期試験⑤ 令和9年 3月4日―3月6日 範囲)					